

## 令和3年度第1回産業衛生技術部会企画運営委員会 議事録

日時：令和3年4月27日(火)10:00~12:00

場所：(新型コロナウイルス感染防止対策のため、ZOOMにてオンライン開催)

出席者：飯田裕貴子，大久保茂子，落合孝則，加藤隆康，貴志孝洋，久保田裕仁，齊藤宏之，津田洋子，藤間俊彦，中原浩彦，中村 修，中村憲司，橋本晴男，原邦夫，宮内博幸，山野優子  
(敬称略，五十音順)

### 議題

1. 第94回学会(2021/5/19~21, 松本)の企画について
2. 第31回全国協議会(2021/12/2~4, 津)の企画について
3. 今後の部会主催行事のテーマについて
4. 各地方会より
5. 各委員会より
6. 2021~22年度の部会体制について
7. 部会員の拡充対策について
8. その他

1. 第94回学会(2021/5/19~21, 松本)の企画について

コロナウィルス非常事態宣言状況下における、学会運営について意見交換を行った。

- ・ 拡大幹事会はオンライン開催とする。5/10-14 頃を候補としてスケジュール調整連絡を行う(齊藤)
- ・ ポスターセッション現地開催は中止となること、学会 Webサイトで公表されたことが紹介された。
- ・ 演者には、個別にオンライン対応の依頼が来ていることが紹介された。一般演題はスライドのみであるが、シンポジウム等の演者には、オンデマンド対応のために音声埋め込み依頼が来ている。
- ・ 技術部会の学会参加の基本方針が議論された。座長も含めてオンライン参加でもフレキシブルに対応できるように準備されているため、現地開催も実施する方針。現地に行くかどうかは個人の判断に委ねることとした。
- ・ 専門研修会、産業衛生技術シンポジウムについて、非学会員の発表者である奥田先生、坪倉先生、湯浅先生に、学会の運営状況を連絡する。(担当：奥田先生：中原、坪倉先生：齊藤、湯浅先生：久保田)
- ・ 技術部会総会は、ハイブリッドで実施する。
  - ✓ 部会奨励賞表彰は、昨年度受賞者と合わせて、2 年分を実施する。受賞者が現地にいれば現地表彰、オンライン参加の場合は、オンライン上で表彰する。表彰状は、後日受賞者に送付する。
  - ✓ 現地参加者人数が予測できないため、紙資料は準備せず、すべてペーパーレスで実施する。資料は、技術部会の Web サイトに掲載する。

2. 第31回全国協議会(2021/12/2~4, 津)の企画について

企画内容の状況を確認した。

- ・ 四部会合同シンポジウムについては、「変化する働き方における産業保健サービスの在り方」をテーマに議論されるが、技術部会からは、川上先生に依頼・承諾済である。
- ・ 産業衛生技術シンポジウムは、「テレワーク・在宅勤務における労働環境の問題と今後の課題」をテーマに演者 3 名が予定されているが、先に労働衛生全般を齊藤先生が説明して、それを受けて榎原先生、佐々木先生の発表とすることとした。
- ・ 専門研修会は、東海地方会の企画として、3演題(演者4名)が予定されていることが紹介された。
- ・ 地方で学会が開催されるときには、その地方から演者が出るように、今後は注意して企画を行うことが議論された。特に、今まで春の学会では基本的に地方会からの参加を検討していなかった。今後は、地方会幹事と、本部と連絡を密に取って、演者やテーマを考えることにすることが決定された。

3. 今後の部会主催行事のテーマについて

今後の企画案として、以下が提案された。次回の企画委員会(8月頃)に開催して企画を固める。

- ・高齢者の産業保健  
70歳定年を見据えて、テーマとして取り上げるべきである。
- ・騒音  
厚労省の騒音ガイドラインも長年改訂されておらず、取り上げる必要がある。騒音障害予防研究会との共同開催が良い。
- ・化学物質の在り方検討会報告会  
厚労省で検討されている検討会の最終報告が出る。今後、化学物質自主管理に方向転換が議論されているので、行政を含めたシンポジウムを検討する。
- ・溶接ヒューム特化物  
説明会は多く開催されているが、法改正内容の紹介に留まった内容が多い。今後、実際の対策事例が出てくるので、継続的に取り上げる必要がある。

#### 4. 各地方会より

- ・関東地方会では、4/10 に溶接ヒュームをテーマに研修会をハイブリッド開催され、106名の参加があったことが紹介された。次回は、2022/2/19 に、IARC 発がん性分類変更の考え方や、産衛学会許容濃度変更を説明する企画を実施予定。
- ・近畿地方会でも、3/10 に溶接ヒュームをテーマに研究会が実施された。ハイブリッドではなく現地開催で約15名の参加があったことが紹介された。
- ・地方会の企画内容について知らなかった意見が出た。ハイブリッド開催では、地方の枠を超えた参加も容易であるため、今後は、他の地方会と密に情報交換を行い、参加者が多く参加できる企画を検討することとなった。そのため、拡大幹事会では、企画内容を相互に紹介することとした。

#### 5. 各委員会より

- ・表彰委員会より、本年度は4名の候補者があり、山内先生、伊藤先生が選出された報告があった。今回から、地方からの推薦も募ったため、全国から推薦があったのは良かったという意見が出た。
- ・広報委員会から、部会 Web ページにて、各地方会の技術部会の紹介記事を掲載するため、原稿依頼を行う紹介があった。

#### 6. 2021～22年度の部会体制について

- ・2021～2022年度 産業衛生技術部会 幹事・企画運営委員・事務局体制について、説明があった。詳細は、会議資料参照。
- ・幹事は理事会で承認が下りたことが報告された。
- ・事務局は、総務：齊藤・中村(憲)、教育：宮内・原、会計：飯田・中村(修)、広報：齊藤・飯田の体制で行うことが紹介された。
- ・技術部会企画運営委員として、昭和大の大久保先生、みずほ総研の貴志先生が、今後、委員として参加することが了承された。

#### 7. 部会員の拡充対策について

技術部会会員の増加について議論を行った。主な論点、意見を以下に示す。

##### <産衛学会員の技術部会への勧誘>

- ・部会は複数入会することを知らない会員も多いと思われるので、技術部会にも同時加入できることを周知してはどうか？
- ・4部会と連動する機会を増やしてはどうか？例えば、学会プログラム作成委員に、技術部会がどのように参加することがポイントである。
- ・高知の学会では、四国の技術部会員に運営委員として参加してもらうように、事務局に連絡する。(橋本、飯田)

##### <学会への勧誘>

- ・前向きに取り組んでいる人に、個別に勧誘する活動が大事であろう。議論で出た候補事例として、以下の紹介があった。
  - ✓ 労働衛生工学会など他の学会で優れた取り組みを発表している方。生涯教育委員の結局的勧誘が望ましい。

- ✓ 産医大の卒業生（意見交換を行う場を望んでいるという意見があると紹介があった）
- ・ 技術士会では、会費や情報で他の団体と相互乗り入れを行っている。技術部会でも検討してはどうか。
- ・ 労働衛生工学会で、技術部会の紹介パンフを置いてもらうなど、外部に技術部会を知ってもらう活動をしてはどうか。
- ・ さんぽ会では、一時会員が減少していたが、名刺交換や無料での情報提供を通じて、大幅に増加した。
- ・ 誰もが参加できる企画を検討してはどうか？看護部会では、非学会員も参加できる、新しい学術集会企画を行っていることが紹介された。

#### 8. その他

- ・ 部会長選挙について質問があり、拡大幹事会で選挙を実施したことが説明された。第2回議事録がホームページに掲載されていなかったのが掲載する。

以上